土木業界に飛び込んでの気づき

CNCP サポーター 河内山 聡

私は、自動車関連企業にて、ロボットによるインフラ点検システムの社会実装に携わっています。インフラ、土木に関しては、これまで全く無縁でしたが（本当は無縁ではなく、日頃、使用させていただいているにも関わらず、関係者の皆さんのご苦労を知らなかっただけですが）、土木業界に飛び込んでいます。勉強が必要と思い、シビル NPO 連携プラットフォームにも参加させていただきました。

土木といえば、正直なところ、ツルハシ・地下足袋・汗のイメージしかなかったのですが、昨年の土木学会の講演を聴くに、土木は、人類の歴史と密接に関わり、数学や経済学などの学問を生み出し発展させてきたことを思い知りました。このことは、CNCP 通信の記事を見ても判るように、実に幅広く高い教養をお持ちの方が大勢いらっしゃることでも裏づけられます。私の土木へのイメージは根底から覆りました。

一方で、この数年の私のインフラ点検システム開発活動の中で、土木業界に戸惑う場面に、何度か遭遇しました。２つご紹介したいと思います。

一つ目は、橋梁のメンテナンスに関してです。ある複雑な構造をした橋梁点検の実証実験について会議をしている時のことです。（供用してまだ 10 年経過していない橋梁です。）その橋梁を設計されている方もいらしたので、主催者の方が、「設計時には、メンテナンスについてはどう考えていらしたのですか。」と質問したところ、「全く考えていませんでした。あはは。」との答えに、私は唖然としました。自動車業界では、製造のし易さ、品質向上、アフターサービスのし易さなどを考慮して製品設計を行います。アフターサービスのことなど全く考えていないと一笑に付すなど考えられません。これは、発注者、設計業者と施工業者が別々であることが要因の一つと聞いたものの、正直いまだに腑に落ちません。

二つ目は、インフラメンテナンス予算に関してです。ロボット点検に関する会合などの冒頭ご挨拶で、「橋梁の老朽化は急速に進みます。インフラメンテナンスの予算は減る一方です。この業界への若者の就業も減っており点検技術者も減る一方です。だから、ロボット技術を開発して、効率化・コストダウンを実現してください。」という論調を時々聞くことがあります。これは違うのではないでしょうか。「橋梁の老朽化は急速に進みます。インフラメンテナンスの予算を増やします。ロボット技術導入のチャンスです。どんどん投資してください。若者の就業も増え、業界は活性化します。」と言うべきではないでしょうか。競争が起きるから良いものがより安くなるのが、市場の原理です。「予算がないから安くしろ」では、人は居なくなるばかりです。また、お金が全くないわけではなく、予算の振り分けの問題です。「なぜ予算を増やさないのか」と常々思っていたのですが、CNCP Vol.48 の投稿を拝見して、「インフラメンテナンスの重要性が広く国民に理解されていない」（以前の私のように）ので、「予算を増やせない」のだと気づきました。理解活動が必要なのですね。

ご紹介した私の戸惑いは、解決がなかなか難しい問題かと思いますが、私は私のできるところから、ロボット技術の社会実装の実現を目指して、インフラを守ることに貢献していきたいと思います。